



第4回自然と親しむ子ども山登り教室始まる

今年も、「自然と親しむ子ども山登り教室」が始まりました。今年は、昨年参加した子どもたち（全員未成年会員）が、継続して参加することになり、説明会の後、第1回目の石老山と昨年雨で中止となった第2回目の伊豆ヶ岳を楽しみました。子どもたちの元気な様子を報告でご覧ください。

★説明会(4月4日)報告

参加者 子どもたち2名
会員外1名
スタッフ5名、会員3名

「第4回自然と親しむ子ども山登り教室」の説明会を実施した。

内容は、登山教室の進め方、運営体制、登山に伴う危険と回避方法、山道の歩き方、登山装備、登山の食料、パッキングの仕方、読図の基

礎、登山日程の説明を行った。

今回の登山教室への参加者は、新しい子どもたちがなく、昨年参加した子どもたちが中心となる。中学2年生の男子2名、中1の女子2名、小学6年生の男子1名、小学5年生の男子1名の参加となる予定。

基本的な説明は昨年と変わらないため、説明のあとは、パソコンを使って、昨年の自然と親しむ子ども山登り教室や岩登り技術講習会、リーダー養成コースで行った沢登りなどのビデオを見ていただいた。

★石老山(4月25日)報告

参加者 子ども3名
スタッフ8名
別働隊 スタッフ2名
会員(障害者3名、健常者4名)

京王線の手車窓からは、富士山もよく見えていた。



新緑の山道を歩く

朝は寒かったが、次第に暖かくなってきた。

相模湖に全員集合し、ここからバスに乗りし

て、プレジャーフォレスト前で下車する。ピクニックランドから名前を変えたいらしい。

バス停の脇で、自己紹介をして、出発する。登山道に入る前に、どこか広いところで、体操をするつもりだったが、すっかり忘れてしまった。道路の脇の庭木の梢で、ホオジロが近づいても逃げずに、「一筆啓上つかまつり候」とさえずっている。K D君は、野鳥図鑑を広げてチェックしている。

登山道に入るところで、みんな地図を広げて、現在位置をチェック。地図をもってくる大きな目的は、自分がいる場所の確認だ。自分がどこにいるのか分らないと、道迷いの大きな原因となる。少しずつ、地図を見る目を養っていこう。

途中でK I君にAさんのサポート体験をしてもらう。岩の多い道だが、K I君はしっかりサポートしていた。途中で、左側が切れ、足下が悪くなったところで、大人と交替する。

しばらく登ったとき、K I君は「北はどちらの方向ですか？」という質問をする。大人は、みんな影の伸びている方向を探すが、K I君は、足下の切り株を見て、年輪が詰まっている方が北ですと教えてくれた。この時ばかりは、大人が脱帽でした。

沢治いから小さな尾根を回り込み、隣の沢治いを登っていくと、右から上がってくる尾根と合流し、そこが大明神展望台だ。丹沢山地が大きく見え、大室山の右手には、わずかに富士山の斜面が真っ白に見えた。中央線を挟んだ反対側には、陣馬山や生藤山がよく見え、さらにその左には大菩薩嶺も見えている。さらに左に白い山が見えたが、南アルプスの山だろうか？

大明神から石老山の山頂に向けて、歩きやすい道となる。足下には、タチツボスミレの他に、ナガバノスミレサイシンやアケボノスミレが咲いている。ミミガタテンナンショウもたくさん咲いていた。

今度は、MちゃんにAさんのサポートを体験

してもらう。登山経験を積んだMちゃんも、しっかりとサポートしている。

左手が植林で、右手が雑木林の道が続く。雑木林の道は、明るくてうれしくなる。ヤマザクラが時々現れ、ミツバツツジも少しだけ見つかった。春の息吹をいっぱい感じながら、急な階段を登ると、山頂の一面に飛び出した。山頂では、大勢の人たちが休んでいた。



私たちも45分ほどお昼休憩とする。山頂から、わずかに富士山の頭が見えたが、はっきりは見えなかった。それでも、丹沢の蛭ヶ岳や大室山はよく見えた。お昼を食べていると、なんと周囲をギフチョウが舞っている。ギフチョウを見るのは、もう10年数年ぶりだ。あまり逃げずに、近くの土の上に何度も止まってくれた。



ツツドリの声がしたが、山頂ではにぎやかすぎて聞こえなかった。下り初めた時、聞こえたので、みんなに静かにして聞いてもらう。「ポポン、ポポン」という懐かしい声が遠くから聞こえた。

多くのスミレが咲く道を下っていくと、融合平見晴台に到着。地面には、桜の花びらが無数

に敷き詰められ、なかなかきれいだ。相模湖がよく見える。また周囲には、ヒトリシズカがたくさん咲き、センボンヤリも咲いていた。



ここからは、見晴の良い岩場に出たり、いろんな奇岩を見ながら下ると、顕鏡寺に飛び出した。顕鏡寺でトイレなどを済ませ、さらに下りにかかる。

最初の石段は、幅が狭いので、注意しながら下る。その後も、いろんな奇岩が現れて、楽しませてくれる。ただ、登山道は今までと違って濡れている。先を急ぐ子どもたちに、気をつけて下るように注意する。

子どもたちは順調に下っていく。しかし、後と少し間が空いたようなので、追いつくまで待つことにする。だが、かなりペースが遅いようだ。その時、上の方から、先に行っていて欲しいという話し声が聞こえた。伝えに来てくれたKさんに聞くと、Tさんが捻挫したとのこと。HさんとA Iさん、二人で一緒に下るから、本

隊や他のメンバーは、先に下ってくださいとのこと。二人より三人で付き添った方が良いと判断したSさんが、後に戻って合流してくださる。

本隊は、先に下って、車道で待つことにする。少し下ると、すぐに林道に出て、そこからほんの少しで、車道に着いた。

捻挫なので、歩いて下れると思っていたが、Iさんが背負ってくださっている。お尻の下にストックをセットし、それをテープシュリングで肩に背負う方法を使っている。車道をバス停までA Iさんががんばって背負ってくださる。

バス停まで下り、バスに乗って相模湖まで行く。そこから、車で来ていたHさんが、車で救急病院まで送ってくださる。Tさんの近くに住むANさんが一緒に付き添ってくださった。

子どもたちをお母さんの元に無事に届けて帰宅し、Tさんに電話を入れると、骨折していたとのことだった。転がり落ちるような危険なところではなかったが、滑って転んだだけでも、骨折してしまうので、注意が必要だ。これからの子ども山登り教室も気を引き締めて望みたい。

コースタイム

プレジャーフォレスト前バス停(9:30)…大明神展望台(10:50-11:00)…石老山(12:00-12:45)…顕鏡寺(13:55-14:15)…石老山入口バス停(15:00)

★伊豆ヶ岳(5月16日)報告

参加者 子ども5名

スタッフ6名

別働隊 スタッフ1名

会員(障害者1名、健常者4名)

去年は、雨で中止となった伊豆ヶ岳だが、今年はすばらしい好天に恵まれた。

正丸駅で自己紹介のあと、体操をして出発する。藤の花がそこかしこにあり、とてもきれいだ。線路下を通って車道に行く。沢沿いにはシャガがたくさん咲いている。ウグイスの囀りを

聞いたので探したら、電線に止まっていた。遠かったのが本当にウグイスかなと思ったが、帰ってから写真で確認したら間違いなくウグイスだった。目立つところでさえずるのはめずらしい。



鮮やかな新緑

オオルリやキビタキの声も、途中で何度か聞いた。今回も、子どもたちには読図の勉強をしてもらおうと、ところどころで現在位置の確認を行う。まずは、登山口だがここは分かったようだ。

沢筋の登山道を登り、長岩峠方面に向かう登山道との分岐を過ぎ、少し歩いたところで、現在位置の確認をしてもらう。そこは、ちょうど沢の分岐で、登山道は左に付いているが、大きな沢が右に伸びている。さらに、右の沢は真ん中の小さな尾根によって二つに分かれている。このことから、ここは標高520m付近であることが分かる。高度計も525mを指していた。

そして、ここから次第に急になり、尾根に上がる胸突き八丁となる。最後の部分には、ロープも張ってある。尾根に早く着いた子どもたちは、少し遅れて登ってくる別動隊の人たちのザックを持ってあげると言い、急なところを下っていった。今回、最高齢のNさんのザックをK君が背負って駆け上がってきた。もう、中学2年生になると、体力は中高年よりもはるかにある。頼もしいかぎりだ。

尾根に出ても、しばらくは急登が続く。しかし、木々の新緑が鮮やかで、急登も気にならない。山腹をトラバースするようになると、縦走

路に飛び出した。男坂は危険なので女坂を登る。しかし、途中で女坂も崩壊があって危険なので、途中から山頂に登る道を通るようにと書いてある。しかし、ここもかなりの急登で、下りが心配だった。



山頂に咲いていたヤマツツジ

山頂に着くと、大勢いた。私たちも三角点のところに行ってから戻って、昼食とする。三角点付近はヤマツツジが咲いていて、展望もよく武川岳や武甲山方面が見えた。



伊豆ヶ岳山頂にて

昼食後、女坂を確認するために降りてみたが、悪いところは特になかったので、下りは女坂を使うことにする。集合写真を撮ったあと、下山にかかる。登山道にはミツバツチグリが咲いていた。

途中にあったアリジゴクをK君とKS君が掘り返して掴まえてきた。大人も一緒になって外に出ているアリジゴクにアリを食べさせようとしていたが、食べなかったようだ。

ここからいくつかのアップダウンを経て、小高山で休憩する。さらに行って、正丸峠のすぐ手前で休憩した後、峠におり、しばらく車道を

歩いてから登山道を下った。男の子たちは指を口の中に入れて吹く口笛を練習している。だんだんうまく吹けるようになり、最後は指のパターンまで変えて吹いていた。

車道に出て、朝の登山口を過ぎ、途中でイチゴを買ってみんなで食べる。Jちゃんは、写真が好きになって、私のカメラを使ってたくさん写真を撮っていた。

最後の斜めになった歩きにくい階段を上が

って、正丸駅に予定時間より20分ほど早く着いた。電車も、予定より1本速い電車に乗って、池袋へと向かった。

コースタイム

正丸駅(9:50)…登山口(10:15-10:30)…伊豆ヶ岳(11:45-12:35)…正丸峠(13:50)…正丸駅(15:05)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回石老山）提出順

ぼくは、今年5年生になりました。

5年生になってからの山登りは、2回目です。

今回は、石老山へ行きました。去年は、山に登るだけでせいっぱいでしたが、今年は、鳥の名前をたく山覚えたいと思い、鳥の本を買って持って行きました。

山に登りはじめるとすぐに、竹の子が生えていました。竹の子が生えているのを見たのは、初めてでした。色々な形の岩が現れ、小さな石が集まってできた岩もあって、おもしろかったです。頂上に着くと富士山が見えて良かったです。下山途中には、「ツツドリ」の鳴き声が聞こえました。今回4羽の鳥を見つけることができて良かったです。 K. I 君

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第三回自然と親しむ子供山登り教室に続き、私は二年目の挑戦だったので、一年目とはまたちがうわくわくした気持ちで挑めました。

今回は、鳥たちの声が沢山聞こえ、色んな鳥のさえずりに、心がいやされました。

中学生になって、これから大変なこと、楽しいこと、沢山あると思いますが、息づまった時は、いつも新しい発見をくれる“山”を思い出そうと思いました。 M. Yさん

山行報告

★安達太良山(3月13日～14日)

参加者 会員(障害者5名、健常者10名)

家を出るときは異様な暖かさだった。上野駅に着くと、今日が最後の運行となった寝台特急「北陸」と夜行急行「能登」がホームに着いたところで、「撮り鉄」の人たちであふれかえっていた。Kさんは、記念の駅弁「北陸」を並んで買っていた。

☆3月13日

今回は、往復とも青春18切符で長い電車の旅となる。郡山駅で、新幹線で来たAさん、Hさんと合流する。二本松駅で車できたHさんと合流し、ジャンボタクシーなどで奥岳に向かう。運転手さんに聞いたら、今年の雪は、10年ぶりくらいの多さだという。

あだたら高原スキー場は、日も差しているが、雨も降っている。富士急ホテルの前で出発準備をさせていただく。

しばらく歩いていると、雨はみぞれ混じりとなる。馬車道は使わず、近道の旧道を登る。展望はほとんどないが、木々の間からゴンドラの上の乗り場が見えた。

勢至平に着くと、風が強くなる。上から下りてきた人に聞いたら、稜線はかなりの強風だったらしい。勢至平を過ぎ、なだらかな尾根を回り込むのだが、このトラバースが、今回最も厳しかった。踏み跡が硬く締まっていて、アイゼンを付けずに登ってきた私たちは、登山靴のエッジを利かせて、キックステップで通過する。



尾根を回り込むと、くろがね小屋が間近に見える。沢に落ちないように注意して登っていくと、くろがね小屋に到着する。小屋は、先に着いた埼玉の大人数グループが大きなテーブルで占領しすでにできあがっていた。

私たちは、部屋に入ったあと、雪上訓練をする。結局、訓練をしたのは、若い人と女性ばかりだった。それでも、滑落停止を一人3回くらいは行った。

食事は、お決まりのカレーだった。たっぷり

食べて飲んで、団欒のあとは、ぐっすりと休むことができた。地震があったことも全く知らなかった。ただ、夜中、強風が吹き荒れていて、翌日が心配になった。

☆3月14日

明け方になると、幾分風が弱くなり、吹き付ける回数も減ってきたので、少し安心した。6時に朝食を食べ、7時10分に出発する。出発したとたんに、目出帽をかぶっていない人がいたり、アイゼンが外れる人がいたり、遅れる人もいて、さすがに15人もいると、いろいろあってペースは上がらない。



くろがね小屋の前で

風はさすがに強いが、歩くのに支障があるほどではない。霧に包まれているが、視界も50mくらいはあるようだ。斜面をトラバースしながら登っていくと、峰の辻に出る。晴れていれば、ここから安達太良山の山頂がよく見えるところだ。今日は、視界が悪く、全く見えない。

さらにトラバースして行き、ゴンドラ方面との分岐に着くと、山頂はすぐそこだ。山頂標識は、出っ張りの下にある。まずはそこで集合写真を撮る。ここから上の出っ張りには、空身で行くが、視覚障害者の人たちが掴まれなくなるので、視覚障害者の人たちとロープで繋ぎあって行くことにする。標高差にしたら10mくらいなので、あっという間に着いてしまった。

一番高いところに立って、ここでも記念写真を撮る。残念ながら展望がないが、全員で山頂に立てたことがうれしい。下りは登り以上に慎

重に下って、下に下りた。



少し腹に入れて、下りは始める。早く下るのはもったいないという感じになるが、とにかくここは、気持ちの良い広くなだらかな尾根だ。樹氷は尾根の右側だけにできている。風が右側から吹き付けるのだろう。樹氷の向こうには、和尚山が姿を見せていた。次第に日が差しはじめ、麓やその向こうの山々が見えてきた。スキーで登ってくる人たちも何人かいた。

ゴンドラ乗り場のすぐ脇の薬師岳で休憩す

★元清澄山(4月11日)

参加者 会員(障害者6名、健常者16名)
会員外(健常者2名)

今日は、NHKテレビの取材が入るため、せめて雨は降らないでほしいと願っていたが、まずまずの天気で、午後からは日も差すようになり、とても暖かい一日だった。

金山ダムのトンネル入口で、自己紹介をして出発する。ダム周辺は、落葉広葉樹も多く、芽吹きの木々や桜の花などが、春らしさを演出している。

赤い吊り橋を渡りダム湖に沿って歩く。足下

ることにする。Hさんが湯を沸かしてくださり、Fさんがお汁粉を振る舞ってくださった。なかなか見えなかった山頂だが、一瞬だけ乳頭部分も見せてくれた。もう少しすると、山頂付近も雲が取れるのではないだろうか？

とにかく陽光に満ちた薬師岳はとても気持ちよかった。最後はシリセードでゴンドラ乗り場に滑り降りた。スキー場の下は、青空が広がって、とても気持ちがよい。時間前に来て待っていてくれたタクシーに乗車し、二本松に向かった。

最後は、宇都宮駅で途中下車して、多くのメンバーで餃子を食べ、打ち上げとした。

コースタイム

3/13 奥岳(12:20)…くろがね小屋(14:50)

3/14 くろがね小屋(7:10)…安達太良山山頂
(8:55-9:35)…薬師岳(10:35)

には、花が終わりかけたウラシマソウが咲き、スミレの仲間も咲いている。頭上には、ヤマザクラなどが咲いている。



白い橋を渡って少し林道を登ると、急な階段のついた登山道へと入る。しばらく登ると、ダム湖が見えてくる。ベンチのある展望台を過ぎ、さらにしばらく行ったところで、休憩とする。

途中、登山道を離れて、展望の良さそうなところを往復してみる。221mピークかと思っ

たが、ゴルフ場が見えないので、どうも違ったようだ。

さらに行って、登山道が左にカーブするところで、右上の尾根に上がって休憩する。ここが221mピークだったかも知れないが、確信は持てなかった。しかし、この周囲には、フデリンドウがたくさん咲いていた。他にも、コタチツボスミレ（自信なし？）やニョイスミレ（たぶん？）が咲いていた。



ここまで何度もアップダウンを繰り返したが、ここからは比較的なだらかな尾根となる。それでも何度かアップダウンを繰り返した。右手にゴルフ場がよく見えるところを過ぎ、頻繁についている指導標を見ながら、ようやく3分の2来たとし少しホッとしながら登っていく。黒塚番所跡によりやく到着し、さらにアップダウンを繰り返すと、目の前に今日のポイント、鎖場が現れた。急に見えた鎖場だが、近づいてみると、それほどではない。しかし、重い撮影機材を持ち上げるのは、大変だったと思う。

鎖場のあとは、急な階段の下りだった。ここを過ぎれば、もう山頂は近いはず。今日、初めて行き違った登山者に聞くと、山頂はもうすぐだという。その言葉に励まされて、最後の登りをがんばると、ようやく元清澄山に到着した。

これまでの行程は予想外に厳しいものだったが、達成感を味わうことのできる山だと感じ

た。山頂で遅い昼食を取り、記念写真を撮ったり、インタビューを受けたりして、下山にかかる。アップダウンの多い道なので、帰りも同じくらい時間がかかるのではと思ったが、一度様子を知った道は、比較的スムーズに下れる。



途中でタクシー会社にも連絡を入れ、17時頃、金山ダムに迎えに来てもらうことにした。長かった行程も、下にダム湖が見えるようになって、誰もがホッとしたのではないだろうか？

林道に下り立ち、思い思いに林道を歩く。子どもたちは先に行かせて欲しいというので、OKを出したら、元気に走って行った。赤い吊り橋を渡り、待っていてくださったタクシーの元に到着した。

NHKさんから、みんなに記念品をいただく。重い機材を持ち上げて撮影して下さった取材班のみなさまには、心から感謝いたします。

今回の登山の様子は、4月14日(水)18:10~19:00の「首都圏ネットワーク」と4月21日(水)11:05~12:00の「こんにちはいっと6けん」の中で、7分30秒ほど放送されました。

コースタイム

金山ダム(9:55)…元清澄山(13:30-14:20)…金山ダム(17:10)

★北高尾山稜(4月18日)

参加者 会員(障害者9名、健常者17名)

高尾駅のバス乗り場は、人でごった返していた。すばらしい天気誘われて、多くの人たちが出かけてきたようだ。そのため、予定していたバスには満員で乗れず、20分後の次のバスに乗ることになった。

小仏のバス停で下り、自己紹介のあと、車道を歩きはじめる。まずは、ニリンソウが迎えてくれる。周囲の山肌は、桜の花や芽吹きの木々で、ほんわかとした春らしさを演出している。

車道の脇から急な階段を登り、登山道に入っていく。植林帯を抜けたところは、芽吹きの木々に囲まれて、いつもワクワクするところだ。小仏峠方面の山腹は、桜の花がたくさん咲き、きれいなピンク色だ。

暖かな日差しを受けて登っていくと、足下に雪が現れ始めた。雪の量は次第に増し、いつしか地肌が全て雪で覆われるようになる。雪景色はよいが、登山道はぬかるみとなってくる。田んぼのようなグジャグジャなところを登る。小2になったS君は、雪やぬかるみを楽しんでいるが、とうとう尻餅をついてしまった。ザックから腰の付近にかけて泥だらけになってしまった。ズボンは、もうすっかり泥だらけだ。



景信山から雪道を下る

最後の階段を登って景信山の山頂に立つ。今日は、すばらしい天気に恵まれ、麓の町がよく

見える。少し休憩したあとは、堂所山に向かう。下りの階段も泥だらけ。田んぼのような状態が続く。Aさんのアドバイスで、できるだけ巻きみちを使って歩くことにする。



堂所山山頂にて

どろんこ道に閉口しながらも、順調に歩き、最後は一登りで堂所山に到着し、ここで昼食とする。山頂は西側の展望が開けていて、陣馬山や生藤山などがよく見えた。

昼食のあとは、Yさんが持ってきてくださったDVDプレーヤーを使って、先日山仲間アルプが登場したNHK首都圏ネットワークを見させていただく。今回、途中で「テレビで見た人たちですね」という言葉をかけていただいたり、山仲間アルプという名前を知っていたりする方が何人かいたようだ。テレビの影響におどろくと共に、少しずつ知名度が上がってきたことがありがたい。



ナガバノスミレサイシン

山頂で、さらにYさんからショウガ湯をご馳走になり、集合写真を撮ったあと、関場峠に向けて下る。この道は、これまでと違って、雪が少なくぬかるんでおらず、とても歩きやすかつ

た。尾根はやや痩せているが、ナガバノスミレサイシンなども咲き、足下や周囲の風景を楽しみながら歩く。

反対側から来た人に聞くと、この先もかなりのぬかるみがあるそうだ。ぬかるみの中の急な下りは、尻餅などでズボンが泥だらけになる心配があるので、関場峠から下ることにする。

急なジグザグ道を下り、林道に出て、草花を観察しながら、思い思いに歩く。エイザンスミレやマルバスミレ、タチツボスミレなどのスミレの仲間や、ヨゴレネコノメ、ヤマドリソウ、カキドオシなどが咲き、ハナネコノメは、花は咲いていたが、一番きれいな雄しべの赤がすで

に落ちていた。

分岐のある広場で、沢に入って靴の泥を落とし、予定のバスに乗れるように、早足で急ぐ。コースを短縮したことと、急いだおかげで、予定時間の16時30分に日影のバス停に着いた。

すでに上空は曇っていたが、春爛漫の一日を楽しめました。

コースタイム

小仏バス停(9:35)…景信山(11:00-11:15)…堂所山(12:30-13:30)…関場峠(14:10-14:20)…日影バス停(16:30)

★尾瀬ヶ原(5月1日～3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

☆5月1日

今回の山行は、天気予報どおり3日間ともすばらしい天気恵まれた。

沼田駅では、谷川岳がよく見え、蒸気機関車が水上に向かって出発して行った。

バスを乗り継いで鳩待峠で降りると、さすがにひんやりしている。サングラスを忘れたKさんとMさんは、鳩待山荘で購入することができた。鳩待峠は除雪されていたが、登山道は、すぐに雪の道となる。木道も雪の下に埋もれていて、歩きやすい。

左手には、明日登る至仏山が、午後の日差しを受けてきらきらと輝いている。川上川は、澄んだ雪解け水を集めて、豊富な水量で流れている。雪解けが進んだところでは、ミズバショウがわずかに花を付けはじめていた。雪解けを待ちかねていたようだ。平坦になった雪の上をさらに歩いていくと、テントや小屋が見えてきた。

今日は、山の鼻小屋で泊まる予定だ。小屋に

入る前に、暖かな日差しを受けて、ベンチで乾杯とする。小屋は空いていて、ゆったりと泊まれた。

☆5月2日

写真を撮るため、日の出前に外に出る。アカゲラのドラミングがこだまし、アオジがそこかしこでさえずっている。ゴジュウカラの声が遠くで聞こえた。



夜明け前、至仏山の山頂左手に月が昇っている。至仏山が、ほんのりピンク色に染まってきた。少し尾瀬ヶ原を歩き、雪の切れたところで、日の出を待つ。燧ヶ岳のすぐ右手から輝く太陽が姿を見せた。今日も雲一つない快晴だ。

朝食が6時からと遅いのが難点だが、事前に

出発準備をすませて、朝食後、できるだけ早く出発するようにする。



軽アイゼンやアイゼンを付け、朝の締まった雪の上を至仏山目指して登っていく。樹林帯を抜けると、背後に燧ヶ岳と尾瀬ヶ原が見えてくる。燧ヶ岳の左手には、会津駒ヶ岳も見えていた。尾瀬ヶ原は、上から見ると、川に沿って木々が生育している様子が良く分かる。

山頂に向けて、広大な雪面を登っていく。Mさんが遅れはじめたが、マイペースで登ってもらうことにする。ぐいぐい直登する元気組みや、ジグザグに登る体力温存派など、思い思いに登っていく。



途中からところどころ木道が出るようになってきた。私は、Kさん、Hさんをサポートしながら、先頭で登っていく。後続がなかなか木道を登ってこないと思ったら、しっかりとアイゼンを外して木道保全に協力していたそう。ただ、雪と木道が交互に現れるため、アイゼンを付けなおした人もいたようだ。

こちらは一足先に、山頂に着き、展望を楽し

む。平ガ岳が間近に見え、越後三山、巻機山、そして一の倉沢の岩壁が黒々している谷川岳などがよく見える。とにかくすばらしい展望だ。



後のメンバーも10分後くらいに到着した。しかし、Mさんは、山頂まで来るのは無理ではないかとの意見が大半で、途中で待っているか、こちらが下るときに会うだろうとの判断で、大休止のあと、下りは始める。と、そのとき、Mさんが登ってきたという声上がり、歓声に包まれる。もう一度、山頂に戻って、全員で集合写真を撮る。そして、少し休憩していただき、下山にかかる。

下りは、楽しいシリセードが待っていた。下りが苦手だと言っていた雪山初めてのKTさんは、最初は怖がっていたが、すぐに慣れ、歩くより楽なので、すっかりシリセードファンになったようだ。新品の雨具を持ってきたMさんは、滑りたくないと言っていたが、それでは1人だけ遅くなってしまうので、みんなから励まされ(?)シリセードをはじめた。

とにかく、傾斜も強くなくて、ほどよいスピードで下れるため、見る見るうちに下まで下っていく。樹林帯に入る頃には傾斜が落ち、滑らなくなるので、歩いて下る。

山の鼻小屋で昼食タイムとする。ここでお別れのNさんは、1人で鳩待峠に向かって行った。預けてもらっていた荷物を受け取り、重くなったザックを背負って、尾瀬ヶ原の縦断に向かう。

しばらく歩いていくと、カケスが飛んできた。と思った次の瞬間、カラスがカケスに襲いかか

った。カラスはカケスを足で掴み、雪面に下り立った。カラスが少し離れたが、カケスはもう飛べなくなっていた。その時、なんと今度はトビがカケスを奪いに来た。しかし、カラスはトビに渡すまいとカケスを掴んで飛び立った。激しい獲物の奪い合いを間近に見ることになり、自然の掟の厳しさを改めて感じさせられた。

長い尾瀬ヶ原の縦断は、平坦ではあるものの変化に乏しく、疲れを感じやすい。また、時々出ている木道の脇は、穴が空いたりしているので、Kさんは慎重に歩いている。

竜宮小屋の手前では、雪解けが進んだ湿原で、ノビタキやアカハラ、ヒバリなどを見つけることができた。竜宮小屋を過ぎて、さらに下田代をがんばって歩く。燧ヶ岳の下に、今日の目的地、下田代十字路の小屋が見えてきた。

ここには、小屋がたくさんあるが、営業しているのは、我々が泊まった檜枝岐小屋と弥四郎小屋だけだった。

檜枝岐小屋は、夕食にビールが1本、サービスされた。食後は、他のグループの人たちと楽しんだり、山のビデオを見たりして楽しんだ。

☆5月3日

今日も、日の出前に外に出ると、アカハラやアオジがさえずっていた。雪の消えた湿原では、ノビタキやアカハラも見られた。



下田代十字路にて

朝食後は、沼尻に向けて、樹林帯から沼尻川に沿って登っていく。段小屋坂の付近は、沢に向かって落ちている斜面をトラバースするの

で、慎重に通過する。沢沿いを離れ、白砂乗越で休憩する。HさんとKさんは、Tさんから靴擦れの手入れをしてもらう。

ここから少し下ると、白砂田代だった。さらに沼尻川に沿って歩くと、沼尻に飛び出した。尾瀬沼は、一部に水面が見えるが、ほとんどが雪におおわれている。雪があるということはその下が凍っているということだ。沼の上を歩いてくる二人組も見えていた。

休憩したあと、私たちも橋を渡ったあと、沼の上を歩くことにする。行き会った二人組に聞いてみると、一部氷の薄いところもあるが、そこを避ければ、沼の上を歩けるという。彼らの足跡に沿って、沼の上を歩く。



燧ヶ岳を背に尾瀬沼の上を歩く

沼の上は平坦なので、さすがに早く歩ける。沼尻から50分くらいで三平下に到着。燧ヶ岳がよく見えている。空は、抜けるような青空だ。峠に登ってしまうと、燧ヶ岳が見えないため、ここで燧ヶ岳を眺めながら昼食を取ることにする。

昼食後、最後の登りをがんばって、三平峠に着く。峠を過ぎるとまだまだ雪道は続くが、地面の出ているところが増えてきた。もしかしたらと思って探していたら、ショウジョウバカマの花を見つけた。ただ、今回見つかったのは、たった一つだけだった。

尾瀬沼まで往復したのだろうか、小さな子どもを3人連れた家族が下ってきた。靴はスニーカーで、木の枝を杖にして下っていく。他にも、スニーカーできている若者や親子を見かけた

が、山を知らない危険度の高い人たちだと思った。

水場でおいしい水を補給し、山道を下っていくと、林道に出てきた。ここからは、ところどころ雪が溶けてぐちゃぐちゃになっているが、順調に下っていく。センダイムシクイが、「焼酎一杯グイー」とさえずっている。周囲は、もう春爛漫だ。大清水では予定のバスに乗れなかったが、ミズバショウやザゼンソウ、キクザキイチゲなどを鑑賞することができた。

3日間、最高の天気恵まれて、春の雪山を

★竜門峡(5月9日)

参加者 会員(障害者8名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

甲斐大和駅で全員合流し、市営バスに乗りして、竜門峡入口で下車する。

駐車場のような広場で、まずはいつもの自己紹介を行う。今回は、会員になって初参加のIさんと、お試し参加のTさんがいるので、新鮮な雰囲気となる。

班分けのあと、ホオジロのさえずりを聞きながら出発する。竜門橋を渡り、すぐに右に続く山道に入るが、すぐに行き止まりとなってしまった。ここは、自然探求路で、竜門峡に続く道ではなかった。それでも、フデリンドウに出会えて、ラッキーだった。

来た道を戻り、車道をさらに進むと、竜門峡方面を示した看板があった。急な登りのあとは、コンクリートで固めた手すりのある遊歩道が続いていた。途中から普通の山道となるが、手すりなどがしっかりと付けられており、安心して歩ける。お試し参加のTさんは、最初からAさんのサポートをこころよく引き受けてくだ

堪能できた。バスの中から桜や春の芽吹きを楽しんでいると、いつしか眠りに落ちていった。

コースタイム

5/1 鳩待峠(14:25)…山の鼻(15:30)

5/2 山の鼻(7:00)…至仏山山頂(9:55-11:10)…
山の鼻(12:50-13:45)…下田代十字路
(16:05)

5/3 下田代十字路(7:00)…沼尻(9:30-9:45)…三
平下(10:35-11:20)…三平峠(11:40-11:45)
…大清水(14:10)

さり、しっかりとサポートしている。



足下のスミレはほとんどがタチツボスミレだったが、取水場のようなところではアカネスミレも咲いていた。ワチガイソウやマムシグサも咲いている。木々の新緑は、目にやさしく、心を和ませてくれる。新緑の間には、桜の花も楽しめる。オオルリやミソサザイもところどころでさえずっていた。



そんな春の風景を楽しみながら歩いていると、炭焼き窯跡に到着する。ここでひと休みして、さらに溪谷を歩いていく。落合三つの滝は、ハイキングコースから全貌を見ることはできなかった。

沢音を聞きながら登っていくと、橋が架かっている、左岸に渡る。ここからすぐのところに休憩舎があった。少し早いがここで昼食とする。Tさんは、今回が初めての参加なのに、皮をむいたグレープフルーツやブドウをみなさんに振る舞ってくださる。Yさんは、沢に降りて、「釣り竿と針があれば、魚を釣れるのにな」と言っている。みんな、思い思いのいこいの一時を楽しむ。



昼食後は、橋の上で集合写真を撮る。橋の上から空を見ると、太陽に暈がかかっていた。N

★倉岳山(5月27日)

参加者 会員(障害者5名、健常者3名)

昨年、雨で中止となり、今年こそは好天でと思っていたが、週間予報から翌日の天気予報までコロコロ変わって、目の離せない日が続いた。しかし、明け方までの雨は上がり、次第に雲が薄くなってきた。

梁川駅で全員集合し、曇り空の下で歩きはじめる。今日は平日ということもあり、少人数の参加だが、Yさんとはじめて会う人もいたので、

さんは、暈を見るのがはじめてというが、太陽の近くを見ることは、意識してみないとほとんどないので、今まで気が付いていなかったのだろう。

橋を渡って右岸を歩き、さらに左岸に渡るところに、丸太3本の橋が架かっていた。ここが今回の一番の難所だったかも知れない。

左岸に渡ると、平戸の石門があり、そこをくぐって登っていく。さらに行くと、木賊の石割ケヤキが石の間から大きく生長していた。

ここを過ぎると、急な登りとなり、車道へと突き上げる。車道に出る手前で富士山が見え、写真タイムとなる。

山里の風景は、まさに新緑の春で、写真を撮っても、なんとなくピントが合っていないような、そんな柔らかさが魅力だ。車道を歩き、近道をしてやまと天目山温泉に行く。

ハイキングのような軽い山歩きだったが、溪谷の沢音や春らしい風景を楽しみ、最後に温泉に浸かってさっぱりする、のんびりできた一日でした。

コースタイム

竜門峡入口(10:20)・・・休憩舎(11:25-12:00)・・・天目(12:35)・・・やまと天目山温泉(12:55)

自己紹介をして出発する。

梁川大橋を渡って車道を進む。途中から先頭に立ったMさんコンビが快調に進んでいくので、こちらは何も考えずについていったら、登り口を通り過ぎてしまった。後から来たKさんやAさんに教えていただいたおかげで、すぐに引き返すことができた。

登山道は、月夜根沢沿いに登っていく。時折日が差すようになり、鮮やかな緑がさわやかな気持ちにさせてくれる。足下には、小さなツツジのような花が無数に落ちている。何という木の花だろうか？

沢筋からなかなかジグザグ登りにかからない。そう思っていると、白いギンランを発見。思いがけない出会いに、とても得をした気分になる。沢筋には、オオルリやミソサザイの声もこだましている。



ジグザグの道を登っていくと立野峠に到着した。峠の向こう側には、朝日山など道志の山が見えてきた。ここからは稜線歩きとなるが、何回かアップダウンを繰り返す。緑の中の鮮やかな赤は、ヤマツツジだ。稜線付近には、かなりたくさんのヤマツツジがあったようだ。ツツドリの声が、間近に聞こえるときもあった。



最後の急斜面を登ると、山頂に飛び出した。山頂に立つと、目の前に扇山や百蔵山、それに大菩薩嶺方面がよく見える。反対側には、道志の山が見える。富士山も見えるはずだが、残念ながら今日は見えなかった。それよりも、山頂の手前くらいから、時折雨がふるようになってきた。ただ、それほどの雨ではないので、苦にはならなかった。

山頂から穴路峠方面に下る。ここもかなり急

な下りだ。慎重に下っていると、登ってくる単独行の女性がいた。今日、はじめて出会う登山者だった。平日の山は、本当に静かだ。



緑の中のヤマツツジを楽しみながら歩いていると、狭い穴路峠に到着した。ここからは、トラバース気味に下り、次第に沢に降りていく。ここのヤマツツジも見事だった。

何度か沢を渡り、滑りやすい岩の上をできるだけ避けて下っていく。見事な大トチノキを過ぎ、高畑山からの道が合流する分岐点に着く。ここからもまだ沢沿いの道が続く。Yさんは、今回はじめてのサポートを体験した。体格の良いMさんのサポートは、体格の良い人がよいのだが、Yさんはしっかりとサポートをしていた。

小篠貯水池に着くと、池の水の色がエメラルドグリーンで、とてもきれいだった。この先のゲートは、左側に扉がついている。ゲートからはコンクリートの道となり、車道へと変わっていく。民家の近くにある大きな木にホトトギスがとまって、「特許許可局」と何度も鳴いてくれた。ホトトギスと分かれた頃から雨が降り始めた。甲州街道に出たところで、雨具を付けて歩く。

今日は雨がふりやすい予報だったが、山中ではほとんど降られることもなく、時折見える鮮やかな青空を楽しみながら歩くことができました。

コースタイム

梁川駅(9:25)…立野峠(11:25-11:35)…倉岳山

(12:10-12:45)・・・穴路峠(13:15-13:25)・・・鳥沢駅

駅(15:50)

★奈良倉山(5月30日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

今日は北高型気圧配置の影響を受け、関東地方だけは曇りで雨交じりの天気予報だ。しかし、雨が降ったとしても強い雨にはならず、しとしと降る程度だと判断したので、予定どおり決行した。

鶴峠に到着すると、霧雨のような状態だった。まずは雨具を付けて登りはじめる。今回は、Iさんが初参加だ。このところ、初参加の方が増えてきて、新鮮な雰囲気山の山行が増え、うれしかぎりだ。

鶴峠付近は、JTの土地らしく、JTの森のようなものがあり、整備された道を進む。途中から山道となり、次第に急登に変わる。ホトトギスが鳴き、足下には、チゴユリやユキザサ、マムシグサなどが咲いている。雨はほとんど感じず、周囲は霧に包まれている。植林帯の霧は白いだけだが、新緑の雑木林に来ると、霧がうす緑色に色づいたようで「若葉色の霧だ」という声が聞こえる。美しい霧に、歓声が上がる。



若葉色の霧の中を登る

昭文社の地図では、途中で林道を横切ることになっているが、なかなか林道が現れない。これはかなり時間がオーバーしているのではないかと、休憩を取らずに登っていくことにした。

足下に、おかしな植物があり、高山植物のオニクに似ているが、ここは高山帯ではないのでおかしいと思い、帰って図鑑で調べたら、ヤマウツボのようだった。

山腹をトラバースし、滑りやすい急登となる。ここもがんばって登る。傾斜が落ちたところで、Yさんに高度計を確認していただいたら、1,330mくらいとのこと。「それではもう山頂ではないですか。高度が合っていないですね」と話していたら、目の前に開けた場所が出てきて、標識まである。そこに行ってみたら、なんともう頂上だった。



クモの糸に付いた水滴

時間オーバーどころか、予定より40分も早く山頂に着いてしまった。これは儲けものでもあるので、山頂でゆっくりお昼にする。霧に包まれてあいにく展望はないが、足下の草やクモの巣には水滴が無数について、とてもきれいだ。マクロレンズで写真を撮り、できあがりを楽しむ。また、蕨をいくつか見つけ、今夜のおかずにしたというKさんのために、みんなで採取する。また、少し林の中にはいると、大きな紫色のスマレや逆に小さな濃い紫色のスマレが咲いていた。帰って図鑑を調べてみたら、小さな方は分からなかったが、大きな方はスマレの女王といわれているサクラスマレなのではないかと思った。

山頂で記念写真を撮って、下山にかかる。コ

ルリのさえずりがすぐ近くで聞こえる。さらに
行くとセンダイムシクイもさえずっていた。



奈良倉山山頂にて

山頂から少し下ると、すぐに林道に合流する。
霧に包まれたこれから向かう方向から、ドラマ
のように誰かが現れるのではないかというN
さんやIさんのロマンを聞きながら、快調に林

道を歩く。途中で出会ったウツギは、オオツク
バネウツギなのではないかと思う。

途中、林道の脇にある登山道を少し歩くと、
すぐに松姫峠に到着した。峠にはすでに小菅の
湯に行く1日1本しかないバスが止まっている。
トイレを済ませ、全員バスに乗車する。小
菅の湯に着き、次ぎに上野原まで行くバスを待
つまでの時間、温泉にゆっくりと入ってくつろ
ぐ。

幻想的な霧の中で、いろんなことを楽しめた
一日でした。

コースタイム

鶴峠(9:50)…奈良倉山(11:20-12:05)…松姫峠
(12:50)

★雨のため、3月7日の発端丈山と、3月25日の鐘撞堂山、5月23日の天城山を中止しまし
た。

ハイキング報告

★第12回ミニハイキング（新川上流八福神めぐり）（3月20日）

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者4名)

帰らず、村上駅まで歩くグループ(5人)もい
た。Yちゃんは健脚で、歩くグループに加わっ
て、元気に歩き通した。 記：M

今日は、午後から強風となり、向かい風に抗
してのハイキングとなった。

新川の畔を飾る千本桜の一部の早咲きの種
類(河津桜?)は見頃だった。

ツクシもたくさん出ていて採取に忙しい人
もいた。

小3のMちゃんは、植物の本を持参して、土
手の草花と比べる観察もしながら歩いていた。
Yちゃんと同じ学校の3年生で、顔はお互いに
知っていたそうだ。

13時に「道の駅」で解散としたが、バスで



東栄寺にて

コースタイム

もえぎ野車庫(10:35)…東栄寺(10:50-11:10)…
新川(11:20)…昼食タイム(12:00-12:20)…道の
駅八千代ふるさとステーション(12:50)

★第13回ミニハイキング（桑納川八福神めぐり）（4月10日）

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

今回は、八福神のひとつ、恵比寿様を祭る貞福寺から桑納川を経て、新川の畔を歩くルートだ。

八千代中央駅からバスで寺台まで行き、ここから歩きはじめる。道路を渡って、すぐにバス道路から外れ、農道に入る。

空を見上げると、タカの仲間とカラスが格闘している。ノスリかと思ったが、尾が長く、翼も先に行って細くなっているようなので、チョウゲンボウだったかも知れない。

周囲の風景を楽しみながら歩いていると、すぐに貞福寺に到着した。お寺の方がいて、スタンプの場所などを教えていただく。ここには、恵比寿様を中心にして、八福神の全ての石像が並んでいた。シャクナゲもきれいに咲いている。

貞福寺を出て、桑納川を目指して歩いていると、小さな川（用水路?）に出た。その中を菜の花が埋め尽くしている。一面の菜の花で、とてもきれいだった。その川の畔を歩いていると。アカミミガメのような亀が泳いでいた。ミドリガメが大きくなって育てきれずに、どこかに放したのだろう。



菜の花と桜に囲まれて

桑納川に出て、桑納川公園を目指して歩く。上空にはヒバリがさえずり、ツバメも飛び交っ

ている。桑納川には、オオバンが群れて泳いでいた。そんな風景を楽しみながら歩き、桑納川公園付近で昼食にする。釣り人達がたくさん釣り糸をたれている。

Iさんから、過去に描いた絵を見せていただき、みんな感心し、私も描いてみようかなという声が出たようなしなないような？

公園からは新川の畔を歩く。河津桜はもう終わっているの、今咲いている背の低い桜は、「陽光」という種の桜のようだ。濃いピンクがとってもきれいだった。新川の畔では、その他、ソメイヨシノが満開で、菜の花などもたくさん咲いている。桜の枝にはモズがとまり、田畑では多くのキジの声がする。



キジの雄

途中で新川の左岸に渡り、桜見物をする多くの人たちの脇を、村上のフルルガーデンに向かう。Yさんとはフルルに向かう手前で分かれる。フルルでコーヒーを飲んだあと、IさんとNさんと別れ、勝田台駅に向かうメンバーは、送迎バスに乗り込んだ。

風もあまりなく、春爛漫の一日をのんびりと楽しむことができました。

コースタイム

寺台バス停(10:55)・・・貞福寺(11:05-11:10)・・・桑納川公園(11:55-12:40)・・・フルルガーデン(13:55)

講習会報告

★岩登り技術講習会（鷹取山）（4月3日）

参加者 会員(健常者4名)

今日は、昨日の強風も収まり、すばらしい天気恵まれ、追浜から鷹取山にかけての桜も満開で見事だった。

岩場への登山道は、タチツボスミレやウラシマソウがたくさん咲いている。ヤマガラやシジュウカラ、メジロなどもさえずり、まさに春爛漫だった。

ビギナーズフェイスは、すでにロープがたくさんセットされ、順番待ちに時間がかかると思い、いつもどおり子不知南面からはじめる。



子不知南面を登るFさん

3級のルートをリードして登り、トップロープをセットする。まずは、みんな3級のルートで足慣らしをする。次ぎに、Fさんと私は、戸田ハングの上部を登る。Tさんは、残念ながら登れず、3級ルートに戻った。

登る人を確保して後を振り向いたら、SさんとOさんが登っている人を見上げているではないか。Tさんたち横浜の人たちが、お昼の時間に立ち寄ってくださった。一緒にお昼を食べ、差し入れをたくさんいただいた。横浜の人たちは、昼食のあと、さらに鎌倉方面に向かったらしい。

我々は、昼食のあと、同じ子不知南面の垂壁、キョンちゃん（5.9）にトライするが、私や

Tさん、Kさんは全く歯が立たず。Fさんは、何度かテンションを入れながらも登り切った。

あまりに難しいため、ここは早めに切り上げ、ビギナーズフェイスに行く。ビギナーズフェイスの中央付近にある左上に斜上する外傾したバンドを使って登るルートは、グレード5.7らしい。ここは、全員クリアした。ここを登っていると、私に声をかけてくる方がいた。10年少々前に、つづら岩を登ったとき、ご一緒したIさんだという。私は、すっかり顔を忘れていたが、Iさんは私の声で分かったという。思わぬ再開にうれしくなった。



ビギナーズフェイスの前で

Iさんは、Iさんたちのグループが張ったロープを使用させてくださるという。お言葉に甘えさせていただき、一番左のフェースにある左ルート（5.8）を登らせていただく。Fさんと私がクリア。Tさんは、もう少しだったが、残念。前のルートで腕力を使い果たしたようだ。

最後のルートは、最初に登ったルートと左ルートの間にある右ルート（5.8）を登る。

腕力を使い果たし、前腕はぱんぱんに張っている。帰る準備をして、Iさんにお礼を言って、岩場をあとにした。帰りは来た道ではなく、広場から桜並木に沿って、広い道を下り、追浜駅に向かった。腕だけでなく、体中の筋肉を使い果たし、満足感を持って家路についた。

★子ども登山教室スタッフ養成講習（救急法・危険予知）（4月24日）

参加者 会員(障害者2名、健常者11名)

16時まで、A氏に講師となっていていただき、登山を進める上での安全上の留意点や、危険に遭遇した場合の対処法などの講習を行った。



ツェルトを広げて説明する相澤講師

世田谷区上馬地区会館で、13時30分から

●講習内容（テキスト：安全登山の基本はシンプル・イズ・ベスト、A氏作成）

- (1)事前準備（安全を保持するための要素とは？）情報、心身、地形、天候、動植物、装備など
- (2)行動中の留意（安全を保持するための要素とは？）
- (3)万一事故や病気に遭遇した時の対応
- (4)机上でも分かるレスキュー技術
- (5)実戦でも役立つシンプルスキル

★事務局の都合で5月8日の岩登り技術講習会（つづら岩）を中止させていただきました。

その他事業報告

★定期総会（5月29日）

東京都世田谷区の上馬地区会館で、第7回定期総会を開催した。出席は、当日の13名と書面委任54名を含む67名で行われた。

内容については総会議案書のとおり、議決さ

れたが、サポート不足への対応に関する提案などが出され、有意義な意見交換が行われた。詳細は、第7回社員総会議事録を参照ください。

☆NHKテレビで山仲間アルプの登山が放映されました！

昨年、NHK-FMに理事長が出演したことがきっかけで、4月11日に実施した元清澄山に、NHKから取材が入り、4月14日の「首都圏ネットワーク」と4月21日の「こんにちは6けん」で、登山の様子が放映されました。テレビに放映されたおかげで、3人の方が入会してくださりました。また、以前から親と共に暮らすことのできない子どもたちに、山

の自然のすばらしさや、人の心の温かさを伝えたいと思って参加を働きかけていた児童養護施設「子山ホーム」の方から連絡をいただき、天城山に参加していただけることになりました。残念ながら天城山は中止になってしまいましたが、次の機会にぜひ参加していただきたいと思います。

個人山行報告

★鐘撞堂山(3月27日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)
会員外(健常者2名)

25日に予定していた鐘撞堂山が雨で中止となったため、個人山行として本日、土曜日に実施した。

池袋を出る頃はまだ雲が多かったものの、小川町付近からはすっきりと晴れ上がってきた。東武線の車窓から、遠く赤城山や上越の白い山々が望まれた。

波久礼駅で電車を下り、自己紹介をしたあと、出発する。周囲は春の雰囲気がいっぱいあふれている。セグロセキレイが電線でさえずり、エナガが民家の庭の木々を飛び交っている。足下には、ホトケノザやヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリなどが咲き、ハクモクレンなど木々の花も満開だ。モンシロチョウは花から花へと舞い、まさに春爛漫。



曹洞宗の禅寺、少林寺に着き、少し休憩したあと、羅漢山へと向かう。早速、いろいろな姿をした羅漢さんが現

れる。春の日を浴び、気持ちよさそうな羅漢さんや、眠いのか、それとも何か悩んでいるのか立てた膝に顔を埋めている羅漢さんもいる。ほかおむりをした羅漢さんなど、いろんな表情がおもしろい。

登山道沿いに並んだ五百羅漢を見ながら登っていくと、羅漢山の山頂に到着する。ここに祭られているのは、本尊の文殊菩薩のようだ。

休憩のあとは、少し急な階段を円良田湖に向けて下る。円良田湖のどちら側を通ろうかと思ったが、右側の道路を行くことにした。カタクリの群生地が見つからなかったのも、左側を歩いた方が良かったのかも知れない。しかし、道路脇の斜面には、オカスミレやタチツボスミレが咲いていて、楽しませてくれた。

あんずの里のあんずは、まだ咲き始めだった。ここからは、私の持っている2008年版の昭文社の地図には道があるものの、Yさんが持っている2005年版にはみちが載っていない。道標もなく、少し心配だったが、特産センターを過ぎたところで右に折れ、ゴルフ場への道を左に分けて、「この先、通り抜けできません」という看板のある→の道を進んだ。



車道から登山道になるところで休憩していると、脇の桑畑でKさんはじめ何人かの人たちがふきのとうを取っていた。登山道を登っていくと、先頭を歩いていたYさんたちが待ってい

て「右か左か」と聞くので、私ははっきりすぐそこに山頂があると思い、躊躇なく右と答えた。しかし、少し登ると、その先には、そこより高そうなところがなく、逆に谷を隔てた左側に高い山が見えるため、これは違うなと思い、引き返し、登ってきた人に聞いたら、鐘撞堂山は反対側を進むとのことだった。



うつむいて咲くカタクリ

5分ほどロスをしたが、すぐに引き返し、正しい道を進む。山頂直下には、カタクリが咲いていた。クサボケもきれいな赤い花を付けている。山頂で、40分ほど休み、ゆっくりする。東京方面や赤城山方面も見えていた。山頂の付近には、カタクリが咲いていて、写真を撮ったり絵を描いたりして楽しんだ。

記念写真のあと、大正池に向かって下ろうと思い、来た道を少し戻って急な階段を下ったが、

どうもおかしいと思い地図を見直したが、この道は谷津池に向かう道で大正池に行かないため、山頂に引き返す。山頂付近には地図にない道が多く、間違いやすいので、注意が必要だ。人に聞いたあと、標識に沿って下ることにしたが、それも何となく半信半疑だった。しかし、少し下りたところで、大正池方面の分岐があったため、これで確信が持てた。

下っていくと竹林が現れる。多くの竹が倒れて折れているため、下で竹炭などを作っている方に聞いたら、先日の雪で倒れたらしい。この付近は28センチ積もったそうだ。

道は次第に広い林道となり、大正池に向かう。大正池の畔にあった、鳥の聞きなしを書いた看板で、ヒバリの「日一步、日一步、利取る、利取る」などを覚えて車道を歩く。

道に迷ったりしたが、予定よりも20分ほど早く寄居駅に着いた。駅で、カンボの宿に立ち寄るというFさんご兄弟と別れ、他のメンバーは、東武線の電車に乗り込んだ。

コースタイム

波久礼駅(9:55)…少林寺(10:35-10:40)…羅漢山(11:00-11:05)…鐘撞堂山(13:05-13:45)…寄居駅(15:10)

各種連絡事項

▼第12回視覚障害者全国交流登山大会のお知らせ

10月9日(土)～11日(月)に長野県の国立乗鞍青少年交流の家で第12回視覚障害者全国交流登山大会が開催されます。この大会は、2年ごとに開催されています。前々回が富山三ツ星山の会主催で立山で実施され、前回は山口ささゆり会主催で山口県の山で実施されました。今年は、東京の六つ星山の会が主催です。

登山は、10日に実施され、初級(交流の家周辺散策)、中級(乗鞍岳登山)、上級(丸黒山登山)の3つのコースに分かれて行います。

また、9日の夜と、10日の夜に、交流会が計画されています。日本全国から、登山をする視覚障害者の人たちやサポートをする人たちが集まりますので、これを機会にぜひご参加ください。

▽平成22年度八千代市1%支援制度の支援金申請が受理されました

八千代市1%支援制度に、平成22年度「自然と親しむ子ども山登り教室」に要する経費への支援金申請をしましたが、受理されました。市民の方の選択届出は、8月頃になると思いますが、決まりましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略) また、Nさんが正会員として復帰してくださり、3名の方が正会員から賛助会員に変更し、1名の方が新たに賛助員になってくださりました。

正会員 10名

○退会者のお知らせ

3月以降、残念ですが、7名の方が退会されました。

編 集 後 記

・理事長のつぶやき

雨で中止になってしまいましたが、天城山には、児童養護施設の子どもたちが参加する予定でした。施設の子どもたちの中には、施設のスタッフの人たちの温かな心に触れる中で、自分も大人になったら、児童養護施設で働いて、大変な状況の中で育ってきた子どもたちの力になりたいという思いを持っている子もいます。

人を批判したり、要求したりすることは簡単

なことですが、自分が苦しんできたことや人からもらってきたことを社会のために生かすことは、決して誰にでもできることではありません。

施設の子どもたちに、山の自然のすばらしさや人の心の温かさを伝えたいと思っていますが、それ以上に、子どもたちから多くのことを学ばせてもらえと思っています。

今回は、雨で中止になってしまいましたが、に山を楽しみたいと思います。
次はすばらしい青空の下で、子どもたちと一緒に

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も
関係なく、みんなで山を楽しみ
たいね。自然は、誰に対しても

